

2019年12月期第2四半期 決算説明会

片倉工業株式会社

(コード：3001 東証第1部)

2019年8月20日

1. トピックス

2. 2019年12月期第2四半期 決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別業績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

3. 2019年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別予想

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

4. 中期経営計画「カタクラ2021」進捗状況

5. 株主還元について

1. トピックス

➤ 第2四半期決算は当初予想比で上振れ（8/7リリース）

- 売上高は、繊維事業での実用衣料の不振や機能性繊維の需要減等も、医薬品事業と機械関連事業で想定より伸長しほぼ当初予想通り。
- 各段階利益は、不動産事業が好調に推移したことや修繕費等の下期への期ずれに加え、機械関連事業と医薬品事業で採算性が改善されたことにより、当初予想を上回る。

➤ 通期業績予想を若干上方修正（8/7リリース）

- 売上高は、医薬品事業で想定より伸長することが見込まれるも、繊維事業での実用衣料の不振や機能性繊維の需要減、機械関連事業での一部出荷が次期へずれ込む見込みであることから、当初予想を下回る見込み。
- 各段階利益は、繊維事業で上記減収による減益を見込むものの、不動産事業が好調に推移することに加え、医薬品事業の伸長や機械関連事業の採算性改善もあり、当初予想を上回る見込み。

➤ トピックス

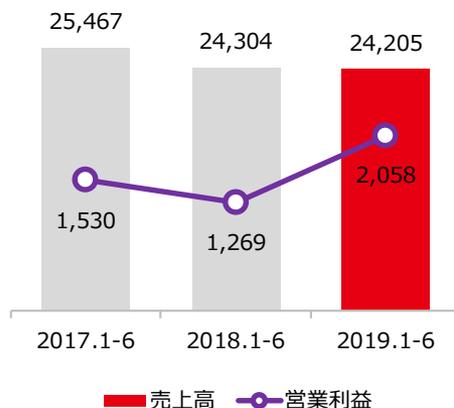
- 繊維（実用衣料）、医薬品、機械関連の3事業については、本年2月に新設した「構造改革推進室」で集中的に見直し、一部採算性改善も抜本的な改革は年内をめどに判断していく

2. 2019年12月期第2四半期 決算概要

(金額単位：百万円)

	2019.1-6実績	2018.1-6実績	前期増減	2019.1-6予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	24,205	24,304	▲ 99	24,100	105
営業利益	2,058	1,269	789	1,150	908
営業利益率	8.5%	5.2%	3.3pt	4.8%	3.7pt
経常利益	2,548	1,790	758	1,550	998
特別利益	255	16	239	-	-
特別損失	▲ 599	▲ 184	▲ 415	-	-
税引前利益	2,204	1,622	582	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,392	950	442	850	542

【過去3年間の業績推移】



【売上高・営業利益】

- 売上高はほぼ前期並みも、増益（詳細は次ページ）

【特別利益】

- 投資有価証券売却益 + 240

【特別損失】

- 割増退職金▲519
- 前期は事業撤退損失（補整下着事業）あり+86

【売上高・営業利益】

- 売上高はほぼ予想どおりも、利益は当初予想を上回る（詳細は次ページ）

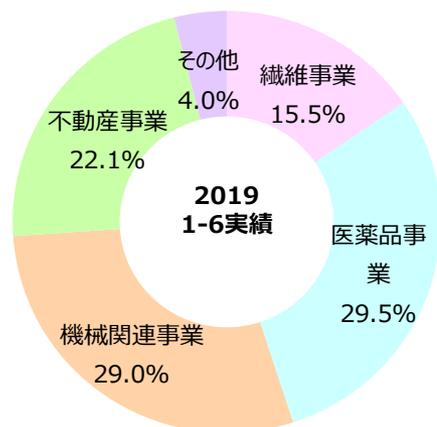
【親会社株主に帰属する四半期純利益】

- 増益による税金費用の増あり

連結損益計算書／セグメント別実績

	2019.1-6実績		2018.1-6実績		前期増減		2019.1-6予想		予想との差異	
	A		B		A-B		C		A-C	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
繊維事業	3,740	78	4,118	76	①▲ 378	2	3,900	0	①▲ 160	78
医薬品事業	7,146	468	7,305	300	②▲ 159	168	7,000	250	② 146	218
機械関連事業	7,007	224	6,458	▲ 44	③ 549	268	6,900	0	③ 107	224
不動産事業	5,353	2,119	5,132	1,802	④ 221	317	5,300	1,850	④ 53	269
その他	957	▲ 10	1,289	▲ 128	⑤▲ 332	118	1,000	▲ 100	▲ 43	90
調整額	-	▲ 821	-	▲ 736	-	▲ 85	-	▲ 850	-	29
合計	24,205	2,058	24,304	1,269	▲ 99	789	24,100	1,150	105	908

セグメント別売上高構成比



①：繊維で減収も利益前期並み

- 前期補整下着事業から撤退により減収
- 機能性繊維は半導体の需要減により減収・減益
- 実用衣料は天候不順による不振も労務費・物流費等コスト削減

②：医薬品で減収も増益

- 前期4月の薬価改定による売上減も、前期6月発売の新製品をはじめとした利益率の高い製品が伸長し増益

③：機械関連で増収・増益

- ODA海外向けのスポット受注に加え、高粗利の電力会社向け受注があったため

④：不動産で増収・増益

- 主要物件が順調に推移したことに加え、償却費等の減

⑤：その他で減収も増益

- 前期のホームセンター事業等の撤退による

①：繊維で減収も増益

- 機能性繊維は半導体の需要減により減収もコスト削減
- 実用衣料は天候不順による不振も物流費等のコスト削減

②：医薬品で増収・増益

- 前期6月発売の新製品をはじめとした利益率の高い製品が伸長

③：機械関連で増収・増益

- 消防自動車で想定よりも改善

④：不動産で増収・増益

- 若干の増収に加え、修繕費等の一部下期へ期ずれによる

連結貸借対照表

(金額単位：百万円)

	2019.6	2018.12	前期増減
	A	B	A-B
流動資産	50,838	56,637	▲ 5,799
固定資産	81,635	81,651	▲ 16
有形固定資産	48,423	48,670	▲ 247
無形固定資産	601	732	▲ 131
投資その他の資産	32,610	32,247	363
投資有価証券	30,154	30,186	▲ 32
資産合計	132,473	138,288	▲ 5,815
負債合計	53,533	60,570	▲ 7,037
借入金	15,458	18,870	▲ 3,412
預り敷金保証金	9,130	9,165	▲ 35
繰延税金負債	8,213	8,156	57
純資産合計	78,940	77,718	1,222
その他有価証券評価差額金	13,454	13,848	▲ 394
負債・純資産合計	132,473	138,288	▲ 5,815

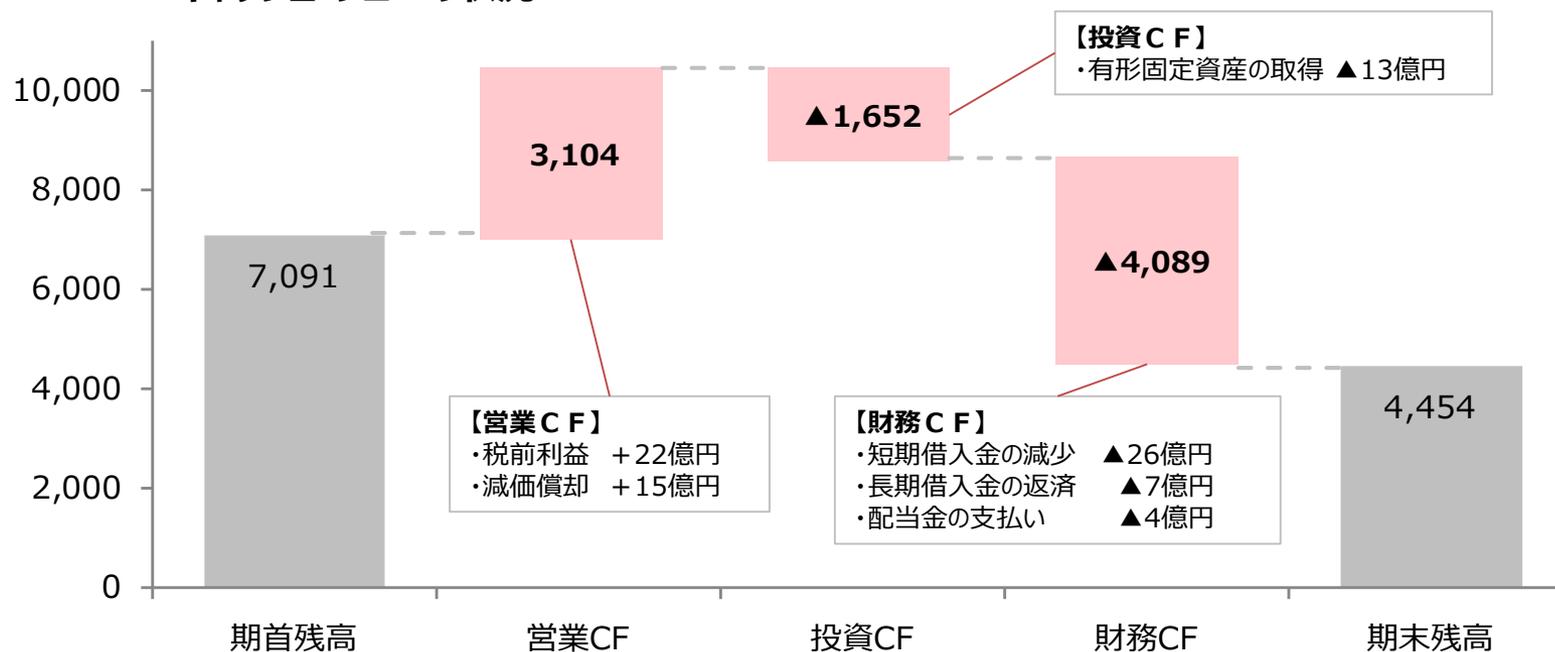
• 期末在庫（消防自動車）の出荷による棚卸資産と仕入債務の減

• 返済による減

(金額単位：百万円)

	2019.1-6実績	2018.1-6実績
現金及び現金同等物の期首残高	7,091	4,785
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,104	3,633
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,652	▲ 922
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 4,089	▲ 2,691
現金及び現金同等物の増減額	▲ 2,637	19
現金及び現金同等物の期末残高	4,454	4,804

キャッシュ・フローの状況



3. 2019年12月期 通期業績予想

(金額単位：百万円)

	2019修正予想	2018実績	前期増減	2019期初予想	差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	43,900	44,308	▲ 408	44,100	▲ 200
営業利益	2,200	1,531	669	2,000	200
営業利益率	5.0%	3.5%	1.6pt	4.5%	0.5pt
経常利益	2,800	2,456	344	2,600	200
特別利益	—	242	—	—	—
特別損失	—	▲ 607	—	—	—
税引前利益	—	2,092	—	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,700	1,283	417	1,500	200

【過去3年間の業績推移】



【売上高・営業利益】

- 売上高は減収も、増益（詳細は次ページ）

【主な特別損益】

- 前期：社有地売却益207、事業撤退損失▲263、固定資産処分損▲235
- 当期：投資有価証券売却益 上期253、下期+a、割増退職金▲519

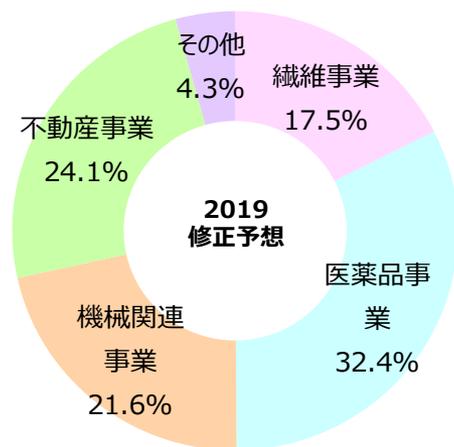
【売上高・営業利益】

- 売上高は減収も、増益（詳細は次ページ）

連結損益計算書／セグメント別予想

	2019修正予想		2018実績		前期増減		2019期初予想		差異	
	A		B		A-B		C		A-C	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
繊維事業	7,700	▲ 100	8,259	▲ 114	①▲ 559	14	8,100	100	①▲ 400	▲ 200
医薬品事業	14,200	250	13,975	164	② 225	86	13,700	150	② 500	100
機械関連事業	9,500	▲ 200	9,052	▲ 456	③ 448	256	9,800	▲ 300	③▲ 300	100
不動産事業	10,600	3,900	10,465	3,774	135	126	10,600	3,700	④ 0	200
その他	1,900	▲ 100	2,555	▲ 288	④▲ 655	188	1,900	▲ 100	0	0
調整額	-	▲ 1,550	-	▲ 1,548	-	▲ 2	-	▲ 1,550	-	0
合計	43,900	2,200	44,308	1,531	▲ 408	669	44,100	2,000	▲ 200	200

セグメント別売上高構成比


①：繊維で減収も利益前年並み

- 前期補整下着事業から撤退により減収
- 機能性繊維は半導体の需要減により減収・減益
- 実用衣料は天候不順による不振も物流費等のコスト削減

②：医薬品で増収・増益

- 当期10月の消費税増税に伴う薬価改定による落ち込みを見込むも、適応追加となったビソノテープや前期6月発売の新製品をはじめとした利益率の高い製品の伸長による

③：機械関連で増収・増益

- ODA海外向けのスポット受注に加え、高粗利の電力会社向け受注があったため

④：その他で減収も増益

- 前期のホームセンター事業等の撤退による

①：繊維で減収・減益

- 機能性繊維は半導体の需要減により減収・減益
- 実用衣料は物流費等のコスト削減も、天候不順による不振により減収・減益

②：医薬品で増収・増益

- 前期6月発売の新製品をはじめとした利益率の高い製品の伸長により増収・増益を見込む

③：機械関連で減収も好転

- 消防自動車の一部納車が来期にずれ込むも、採算性の改善により好転

④：不動産で増益

- 各種費用の減による

(参考) セグメント別 上期・下期比較

➤ 上期好調も、下期はほぼ前期並みの数値を見込む

- ・ 医薬品は、消費税増税に伴う薬価改定を織り込み下期落ち込みを見込む
- ・ 機械関連は、消防自動車の出荷が1～3月に集中するため、下期は例年ダウントレンド
- ・ 不動産は、上期から下期へ一部費用の期ずれ

(金額単位：百万円)

	2019上期		2019下期予想		増減		2018下期		増減	
	A		B		B-A		C		B-C	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
繊維事業	3,740	78	3,960	▲ 178	220	▲ 256	4,141	▲ 190	▲ 181	12
医薬品事業	7,146	468	7,054	▲ 218	▲ 92	▲ 686	6,670	▲ 136	384	▲ 82
機械関連事業	7,007	224	2,493	▲ 424	▲ 4,514	▲ 648	2,594	▲ 412	▲ 101	▲ 12
不動産事業	5,353	2,119	5,247	1,781	▲ 106	▲ 338	5,333	1,972	▲ 86	▲ 191
その他	957	▲ 10	943	▲ 90	▲ 14	▲ 80	1,266	▲ 160	▲ 323	70
調整額	-	▲ 821	-	▲ 729	-	92	-	▲ 812	-	83
合計	24,205	2,058	19,695	142	▲ 4,510	▲ 1,916	20,004	262	▲ 309	▲ 120

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

(金額単位：百万円)

	2019修正予想	2018実績	前期増減	2019期初予想	差異
	A	B	A-B	C	A-C
不動産事業	810	669	141	860	▲ 50
その他のセグメント	2,270	964	① 1,306	1,840	① 430
設備投資額	3,080	1,633	1,447	2,700	380

- ①
- 繊維事業（機能性繊維）で製造工場の耐震補強工事を実施

不動産事業	1,690	1,781	▲ 91	1,680	10
医薬品事業	970	1,021	▲ 51	940	30
その他のセグメント	460	454	6	480	▲ 20
減価償却費	3,120	3,256	▲ 136	3,100	20

医薬品事業	2,130	1,854	② 276	1,900	② 230
その他のセグメント	150	203	▲ 53	160	▲ 10
研究開発費	2,280	2,057	223	2,060	220

- ②
- 新製品の自社開発及び共同開発品目の増加による増額を見込む

4. 中期経営計画「カタクラ2021」進捗状況

構造改革 方針

- 事業環境の悪化等により安定した収益基盤の確立に至っていない事業
→ **ビジネスモデル転換と更なる収益改善に取り組み**
- 2020 年度での黒字化が見込めない事業
→ **2019 年度中に事業規模の大幅な縮小または撤退を検討**

<基盤となる体制の整備など>

ガバナンス体制の強化

- 当社取締役の繊維、機械関連事業子会社社長兼務
- 構造改革推進室による構造改革の着実な推進
- 関係会社管理規程の見直し

生産性の向上

- 各種会議の廃止や見直しによる効率化
- スライド勤務導入による効率的な働き方への改革

リスク管理体制の強化

- 法務・コンプライアンス室およびコンプライアンス部会の新設
- リスク即報体制の構築

政策保有株式の段階的な売却

- 保有意義が乏しいと判断した株式を段階的に売却
- 2018年：34百万円、2019年：上期253百万円・
下期+a（全て売却益ベース）

(2) 構造改革対象3事業の取り組み

医薬品事業

- ・ 医療費抑制策や消費増税に伴う薬価改定の影響等により、想定より厳しい事業環境下
- ・ 後発品拡充による売上の確保：2018年6月に2成分3品目を上市
- ・ アウトライセンスによる販売の拡大：ビソノテープの中国における開発・販売に関する基本枠組契約締結
- ・ インライセンスや承継による更なる製品ラインナップの拡充
 - 薬価改定のマイナスを補う売上の確保とイン／アウトライセンスを活用した研究開発費の効率的支出に継続して取り組む

繊維事業 (実用衣料)

- ・ 不採算となっている取引先を抽出し、約2割の先と順次取引を解消
- ・ 採算性改善の難しい商品カテゴリー（シルクNB・ケアコットンNB）からの撤退
- ・ 国内自社物流拠点の統合検討を含めた物流費の削減
 - 事業規模を縮小しつつ、拡大領域（量販PB・介護）へ経営資源を集中

機械 関連 事業

消防車

- ・ 国内大手メーカーから生産管理等のエキスパート2名を取締役として登用
- ・ 入札から納車までの情報を一元管理し、採算性を重視した製販連携体制の構築に取り組み
 - 各生産工程を見える化し、先行生産によるアイドル工数の低減や工程管理により外注・材料費を削減することで早期の採算性改善を図る

受託加工 環境機器 農業用機械

- ・ 事業規模の縮小を前提とした事業再構築
- ・ 更なる経費削減に取り組むことで、安定した収益構造への転換を図る

(3) 成長分野の取り組み

不動産事業

- ・ 3月1日付で組織再編
- ・ 「さいたま新都心まちづくり事業」としてコクーンシティの魅力向上及び第三期開発計画策定、並びに既存施設の再構築等の不動産事業の重要課題を着実に推進するため、効率的かつ集中的に取り組む体制へ

◆直近のさいたま新都心駅前社有地開発

施設／計画名称	開業	敷地面積	内容
コクーンアスレチックス	2017/9	約600㎡	・ ヨガ、ボルダリング、ラン&ウォーク、カフェ等のサービス提供
コクーン保育園	2018/4	(パークサイドビル内)	・ 企業主導型保育事業として従業員・テナント等の提携企業、地域住民の方も利用可能
第三期開発	・ エリア全体を対象に開発計画を検討し、中計最終年(2021)より前倒しでプラン確定できるよう取り組み中		



「コクーンアスレチックス」
(運営者：(株)BEACH TOWN)

繊維事業 (機能性繊維)

- ・ 新たな高機能素材の開発と耐熱性繊維の用途開発を進める

ライフソリューション事業

- ・ グループ内における商品・サービスの市場競争力や独自性の高い事業を「ライフソリューション事業部」として集約し、業務提携やM & Aなどの外部リソースの活用も含めた事業拡大を図る
- ・ 前広便座販売事業は普及拡大のため他社へ事業譲渡が最適と判断（8月16日実施済み）

(参考) さいたま新都心まちづくり

さいたま新都心駅前社有地

社有地全体：147,000㎡ (公道等除く)

社有地南側の開発が確定し、エリアの魅力が高まる

- ① 埼玉県最大級、総計画戸数1,400戸の大型マンション「シントシティ」が2020年竣工予定
- ② 民間企業2社が用地取得、複合用途施設として整備予定



a.コクーン1 b.コクーン2 c.コクーン3 d.パークサイドビル e.レクサスさいたま新都心 f.フォルクスワーゲンさいたま新都心 g.コクーンアスレチックス
h.ガーデンヒルズ迎賓館 i.さいたま新都心 コクーンシティ住宅展示場 j.オフィスビル k.ニチイホーム アイリスガーデン l.デリーヤマザキ

(参考) 業績の推移と2017-2018取り組み

<業績の推移>

カタクラ2021

売上高

(金額単位：百万円)

	2016	2017	2018	2019	2021
	実績	実績	実績	予想	中計
繊維事業	9,635	9,132	8,259	7,700	11,500
医薬品事業	15,065	14,271	13,975	14,200	15,200
機械関連事業	9,412	9,689	9,052	9,500	13,000
不動産事業	10,188	10,380	10,465	10,600	10,800
その他	2,626	2,712	2,555	1,900	6,100
	46,927	46,185	44,308	43,900	56,600

営業利益

(金額単位：百万円)

	2016	2017	2018	2019	2021
	実績	実績	実績	予想	中計
繊維事業	▲ 250	▲ 135	▲ 114	▲ 100	500
医薬品事業	199	581	164	250	1,200
機械関連事業	88	▲ 168	▲ 456	▲ 200	400
不動産事業	3,176	3,575	3,774	3,900	4,000
その他	▲ 511	▲ 384	▲ 288	▲ 100	300
調整額	▲ 1,216	▲ 1,566	▲ 1,548	▲ 1,550	▲ 1,200
	1,486	1,901	1,531	2,200	5,200

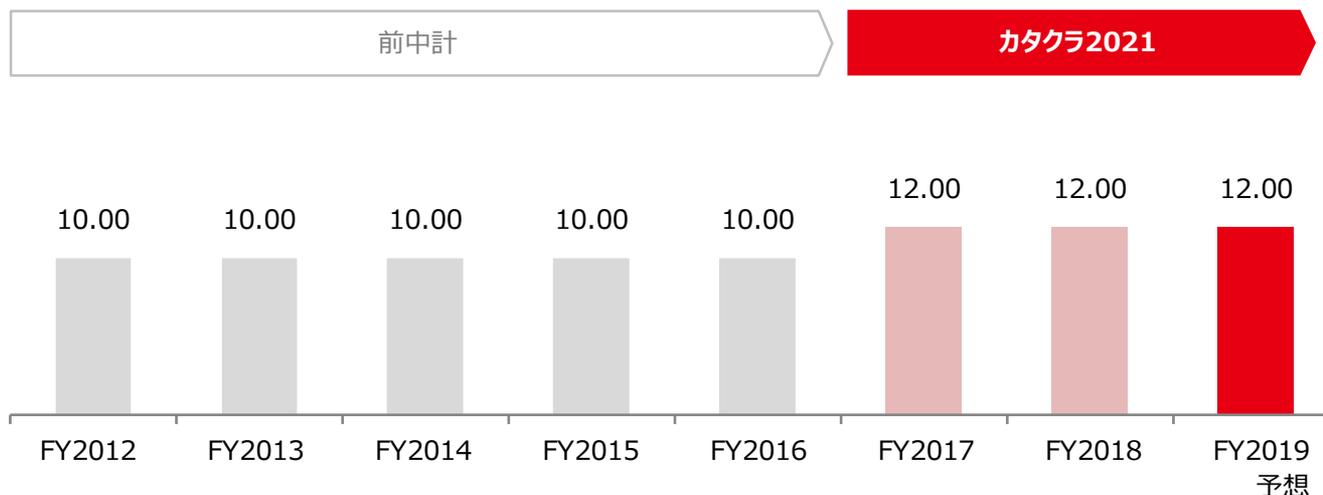
<2017-2018取り組み>

- 【医薬品】希望退職実施による労務費の圧縮（2017年2月）
- 【繊維】補整下着事業から撤退（2018年4月）
- 【その他】化粧品事業から撤退（2018年10月）
- 【その他】DS直営事業からの撤退（2018年9月までに賃貸スキームに変更）
- 【その他】ホームセンター事業から撤退（2018年末に全2店舗休止）
- ガバナンス・推進体制強化（指名・報酬諮問委員会設置、社外取締役増員）
- 社有未利用地、政策保有株式の段階的な売却

5. 株主還元について

<利益配分の方針>

- 当社は、株主の皆様への利益還元を、経営上重要な政策の一つに位置付けております。
- 利益の配分については、安定配当の実施を基本とし、業績や今後の事業展開、内部留保の水準及び配当性向等を総合的に勘案のうえ、配当を行うこととしております。



純利益（百万円）	701	1,001	268	226	1,691	1,224	1,283	1,700
1株当たり当期純利益（円）	19.95	28.50	7.62	6.44	48.11	34.83	36.56	48.49
配当性向（%）	50.1%	35.1%	131.2%	155.2%	20.8%	34.5%	32.8%	24.7%

《参考資料①》カタクラグループの多角化起源

創業 1873年（明治6年）

設立 1920年（大正9年）

カイト

垣外製糸場



生糸



富岡製糸場の保有
1939～2005年
（66年間）



生糸製造

生糸製造の伝統を受け継ぐ

繊維事業

衣料品事業部
肌着、靴下の製造・販売

オグランジャパン(株)
カジュアルインナーの製造・販売

(株)ニチビ
水溶性繊維、耐熱性繊維の
製造・販売

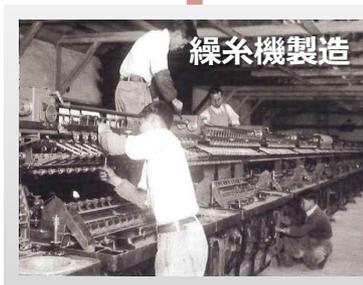


蚕糸関連研究

優良蚕品種研究を活かす

医薬品事業

トーアエイヨー(株)
医療用医薬品の製造・販売



繰糸機製造

自社開発の製造ノウハウを活かす

機械関連事業

機械電子事業部
自動車部品の製造・販売
石油製品等の輸入販売

日本機械工業(株)
消防自動車の製造・販売

片倉機器工業(株)
農業用機械の製造・販売



製糸工場

跡地を有効利用する

不動産事業

不動産事業部
社有地の開発・活用
ショッピングセンターの運営
不動産賃貸

《参考資料②》カタクラグループの事業構成

繊維事業

Katakura Silk

介護肌着

ライセンス製品

アルミナ長繊維
(耐熱性繊維)



衣料品事業部

オグランジャパン(株)

(株)ニチビ

医薬品事業



トーアエイヨー(株)

不動産事業

東京スクエアガーデン

ココーンシティ



不動産事業部

機械関連事業

三岐弁

振動ハブリング
洗浄器

二輪管理機

はしご車



機械電子事業部

片倉機器工業(株)

日本機械工業(株)

ライフソリューション事業

(※) 会計セグメントの「その他」

農業関連製品

食品

マルベリーガーデン

ビルの清掃等



ライフソリューション事業部

(株)片倉キャロンスervice

<ご案内>

本資料中の業績見通し等についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

その実現・達成を保証または約束するものではありません。また今後、予告なしに変更されることがあります。

本資料に含まれる情報の掲載にあたりましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りに関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

<お問い合わせ先>

片倉工業株式会社

住所：〒104-8312 東京都中央区明石町6番4号

企画部 広報・IR室 室長 菊地 信行

Tel : 03-6832-0223

Fax : 03-6832-0282

世界遺産登録「富岡製糸場」



特集WEBページ「片倉工業と富岡製糸場が歩んだ歴史」

<https://www.katakura.co.jp/tomioka.htm>